

みなみ minami

2018年 秋号

発行：独立行政法人国立病院機構
熊本南病院
 熊本県宇城市松橋町豊福2338



残暑に負けない

院長 金光敬一郎 (外科)



皆様、残暑お見舞い申し上げます。

平成30年度も半分を過ぎ、ひぐらしの声もよく聞かれる季節になりましたが、まだまだ暑く、屋外での仕事には十分注意が必要です。この夏は、近畿の地震、中部四国地方の大水害、全国の猛暑（危険な猛暑）となり、高齢者や弱者にはとても辛い夏でした。病院に来られた患者さんには「十分水分を取って下さい。炎天下の屋外での作業は短く、出来れば室内で涼しくお過ごし下さい。」とお伝えしています。日中はなんとか過ごしても夜間になって頭痛、悪心、下痢など体調不良が襲ってくる場合があります。「汗をかいた分だけ水分摂取を！ひどいときは塩分も」と声かけをしています。

今年の夏に私は、子供達と触れ合う機会があり、小学校で授業をさせていただきました。「がん」についての教育の一環として行わせていただきましたが、子供達の澄んだ目がとても印象的で、こちらの心も少しきれいになったような気がします。成長している子供達の目は輝いており、とても印象的でした。

さて、当院は6月末から院内の情報システムとして電子カルテに移行しました。やや遅ればせではありますが、院内の連絡や診療、検査などの情報のやり取りが便利になり、一層患者さんへの気配りを徹底していきたいと思っています。病院もコツコツと成長しています。まだまだ成長するように目を輝かせていきたいものです。

♪♪ サマーコンサートが開催されました ♪♪

～豊福小学校 吹奏楽部～

(広報・サービス部会)



8月20日(月)に、「患者さんたちに音楽のもつ素晴らしさを届けたい」という願いから、当院のリハビリ室にてサマーコンサートが開催されました。豊福小学校の吹奏楽部にお願いし、4～6年生の総勢36名による迫力ある素晴らしい演奏をしていただきました。

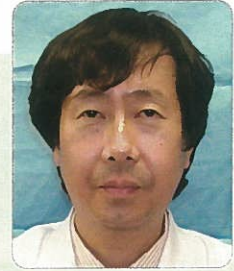
演奏曲は、ディズニー映画の主題歌に始まり、YMCA(ヤングマン)、少年時代、勝手にシンドバッドなど、曲の紹介を交えながらたっぷりと聴かせていただきました。中でも、5年生女子による坂本冬美の“また君に恋してる”をバックバンドでの熱唱。かなり緊張されたと思いますが、小学生とは思えない堂々とした姿と優しくも迫力のある歌声に心打たれました。また、4年生6名によるボンボンを持つてのチアダンスの披露もあり、皆さんの息も合い、とても可愛らしかったです。最後は、患者さんからの盛大なアンコールの声に応えて、大盛況のなか終了しました。

今年は患者さんやご家族の参加も多く、自然と笑顔や手拍子がでたり、体を揺らしながらリズムを取られるなど、一体となって演奏を楽しまれている様子でした。理学療法士の方々の協力により、寝たきりの患者さんのリクライニングチェアでの参加もありました。また、人工呼吸器を装着されている神経難病の患者さんも参加され、満面の笑顔に片手で手拍子をとられている姿に、担当した私達もとても嬉しく感動しました。

コンサート終了後には、「聴くことができて良かった」「楽しかった」との感想をいただきました。このコンサートが少しでも患者さんやそのご家族の方の励みになれば幸いです。今後も患者サービスの一環として、皆さんに楽しんでいただけるコンサートを開催していきたいと思っております。音楽は本当に人を元気づける力があると改めて思いました。豊福小学校の吹奏楽部の皆さんには、この場を借りて深くお礼申し上げます。

》 C型慢性肝炎について

小河 洋（消化器内科医長）



2014年11月以降、インターフェロン（IFN）フリー治療の直接型抗ウイルス薬（DAAs）の登場によりC型慢性肝炎に対する治療は、日進月歩の発展を見せています。

これまで、IFN療法の対象にならなかった高齢者や肝硬変患者に対する抗ウイルス療法が可能となりました。IFNの抗ウイルス効果は、主に宿主の反応を介していましたが、DAAsは、ウイルス蛋白を直接標的にします。非構造領域のうちNA3/4A、NS5A、NS5B領域が標的となります。DAAsには、プロテアーゼ阻害剤、ウイルスゲノム複製複合体形成を阻害するNS5A阻害剤、HCVに取り込まれ伸長を阻害したり、核酸合成酵素活性を阻害するNS5B阻害剤の3種類があります。一方でIFNには肝発がん抑制効果がありますが、DAAsの場合、IFNと同程度の肝発がん抑制効果が得られるかどうかについては、現時点ではエビデンスがありません。

また、治療不成功例で出現する薬剤耐性変異株などの問題もあります。しかし、IFNと比べてDAAsによりほぼ100%HCVは排除される時代になっています。

C型肝炎等、肝疾患全般にわたって気になる場合は、いつでもご相談ください。

緩和ケア病棟

荒木 ちえみ（看護師長）



緩和ケア病棟が開設し、今年で3年目を迎えることになりました。

当病棟では、痛みや倦怠感など様々な症状を緩和する事で、残された時間をその人らしく、穏やかにすごして頂くための支援をさせて頂いています。

日々の関わりの中で、患者さんやご家族との対話を大切にし、これまで患者さんが歩んでこられた過程を思い描きながら、生活のお手伝いをさせて頂いております。ご家族揃ってのお食事会や音楽鑑賞、季節を感じる催しなど、日常の何気ない風景を共にすることで少しでも安らぎを感じて頂けるよう心掛けています。

認定看護師2名も活動の幅を広げてきており、医師や関わるすべてのスタッフとのチームワークを良好にし、患者さんに寄り添う看護を目指しております。そして、地域に貢献できる緩和ケア病棟となれるようスタッフ一同努めてまいります。

栄養管理室

立石 容子（主任栄養士）



栄養管理室は、管理栄養士2名、調理師5名、調理助手4名、事務助手1名が所属し、1日に300～400食の食事を提供しています。様々な疾患に対応する治療食のほか、患者さんにとって食事が楽しみの一つとなるように、季節を感じていただけるような行事食の提供にも取り組んでいます。

また、当院では医師の指示のもと、入院・外来栄養食事指導を「わかりやすい説明と実践可能な提案」を心がけて実施しています。すこしずつ暑さがやわらぎ、食べ物が特に美味しく感じる季節（食欲の秋）が近づいています。美味しいものを美味しく食べ続けられるようにするためにも、自身に必要な“バランス”や“適量”を正しく知ることは大切です。食事療法が必要な方、食事療法に取り組まれている方、食生活や健康管理に関心のある方は、ぜひお気軽にご相談ください。食生活を変えることは容易ではありませんが、すこしずつ改善を図っていきましょう。



地域医療連携室のご案内

地域医療連携室では、患者様、ご家族から様々な相談をお受けしています。
保健・医療・福祉の関係機関の皆様と連携し、地域に密着した優しく思いやりのある医療をめざします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

● 自宅退院・転院・施設入所に関する相談

関係機関の方々との情報交換を行い、対象となる患者様には退院前カンファレンスや退院前・退院後訪問指導を実施します。

*入院前から様々な情報収集を行い、関係機関の皆様との早期連携を試みます。

*退院前訪問指導・・・療養環境の確認を患者様とご家族や関係機関の方々と一緒にいきます。

*退院後訪問指導・・・退院後、在宅での医療の継続に対する不安や困り事について、一緒に考えサポートします。

● 福祉制度に関する相談

● 治療費など経済的な事に関する相談

● 心理社会的な事に関する相談



独立行政法人国立病院機構

熊本南病院 地域医療連携室

TEL 0964-32-0826(代表) FAX 0964-33-1144(直通)

<http://www.hosp.go.jp/~kumanann/>

月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00

受診・受療に関する窓口のご案内

病院代表にご連絡ください

● 当日受診に関するお問い合わせ ▶ 外来看護師が対応いたします。

● 外来の予約変更に関するお問い合わせ ▶ 医事課担当者が対応いたします。

● 特殊外来に関するお問い合わせ (各担当者が対応いたします)

■ 緩和外来・ALS外来・短期入所外来・・・・・・・・地域医療連携室

■ セカンドオピニオン外来・・・・・・・・医事課

■ パーキンソン外来・・・・・・・・外来

編集後記

今年の異常なまでの酷暑もやっと一段落して、幾分過ごしやすい季節になりましたが、皆様いかがお過ごしですか？
“みなみ”秋号が完成いたしましたのでお届けいたします。

秋というと、いよいよマラソンシーズンの到来です。最近、距離も3kmから100km超のウルトラマラソンまで、種目も個人から親子ペア、リレーマラソンまで様々あります。走っているときは「無の境地」になることが出来ます。そしてゴールした後の達成感は最高です。(ビールはもっと最高です。)記録への挑戦、健康・美容の為、親子・友人との絆を深める為、理由は何でも結構ですが、一度走ってみませんか？日頃(職場)のストレス発散にも最高です。